

変わる TOKYO 地図 < 第78回 >

北千住駅エリアで再開発事業が始動

●千住一丁目に新たなプロジェクト

JR・東京メトロ・東武・つくばエクスプレスが乗り入れる「北千住」駅に程近い地区で、「千住一丁目地区第一種市街地再開発事業」が進行中です。

宿場町としての長い歴史を持ち、下町情緒あふれる千住エリアは、新たな再開発プロジェクトでどのように生まれ変わるのでしょうか。今回は「変わる TOKYO 地図」の一環として、この事業についてみていきます。

●回遊性とにぎわいのある中心市街地を形成

千住一丁目地区は、旧日光街道の本町センター街に面し、商業地区内の核となる比較的まとまった敷地でありながら、建物の更新が進まず、防災上の課題を抱えていました。

足立区都市計画マスタープラン等においては、商業施設の更新や都市型住宅の供給により、すでにある市街地の活性化を図るべき地区とされていました。

このため、個別の建替ではなく、街区全体としての防災性の向上を図り、高度利用による空地を確保するために、市街地再開発事業によるまちづくりが計画されました。

これまでの経緯をみると、平成28年4月に東京都により千住一丁目地区市街地再開発組合の設立が認可。その後、12月に権利変換計画認可が下り、今年4月には本体工事が着工されました。

プロジェクトの事業効果には、以下の項目が掲げられています。

①地域の防災性の向上

土地の集約と高度利用により、道路を拡幅するとともに、オープンスペースを確保し、地域の防災性の向上を図る。

②地域商業の活性化

商店街に面してオープンスペースを設けることにより、地域商業の活性化に資するにぎわい空間を創出する。

③地域コミュニティの活性化

建物低層部に子育て支援施設、多目的室等を整備し、地域の

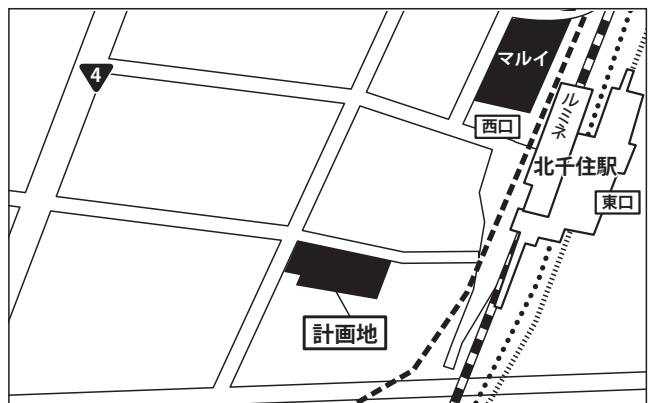
コミュニティの活性化を図る。

●地上30階建ての超高層ビルが誕生

事業の概要については、認可組合(施工者)の名称が千住一丁目地区市街地再開発組合、所在地は足立区島根一丁目2番3号。参加組合員として三菱地所レジデンス、三菱倉庫が参画しています。施行地区は足立区千住一丁目地内の約0.5ha、地権者はスギモトホールディングス、第一生命保険、東京都財務局など計5者です。

具体的な整備内容は、地上30階・地下1階建て、高さ約112mの高層ビルを新たに建設。ビルの延べ面積は約2万4,000㎡、施設用途は住宅(約180戸)、店舗、子育て支援施設、多目的室、駐車場、駐輪場などです。また、公共施設として、足立第48号線(幅員7.27m)などの区道が整備されます。総事業費は約143億円、建物の竣工は平成31年9月を予定しています。

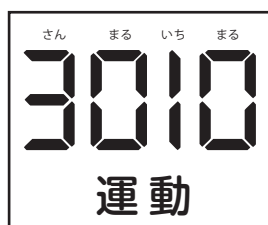
同プロジェクトについての詳細は、東京都ホームページ(<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2016/04/20q4c200.htm>)よりご覧いただけます。また、プロジェクトについてのお問い合わせは、都市整備局市街地整備部再開発課(03-5320-5137)までお願いいたします。



COFFEE BREAK

残さず食べよう「3010」運動

居酒屋や飲食店で黄色と黒の三角の紙に「3010」と書かれたPOPを見かけるようになりました。これは、環境省が推進する「3010(サンマルイチマル)運動」の普及促進グッズ。「乾杯後30分間は席を立たずに料理を楽しみましょう、また、お開き10分前になったら席に戻り、再度料理を楽しみましょう」と、宴



会の食べ残し、つまり食品ロスの削減を促すものです。日本では、売れ残りや食べ残しなどの食品ロスが年間約621万トンにも上り、毎日、国民一人あたり茶碗一杯分を捨てていることになるそうです。少し意識するだけで、貢献できるとあり、食べ残し削減運動は全国に広がりつつあるようです。